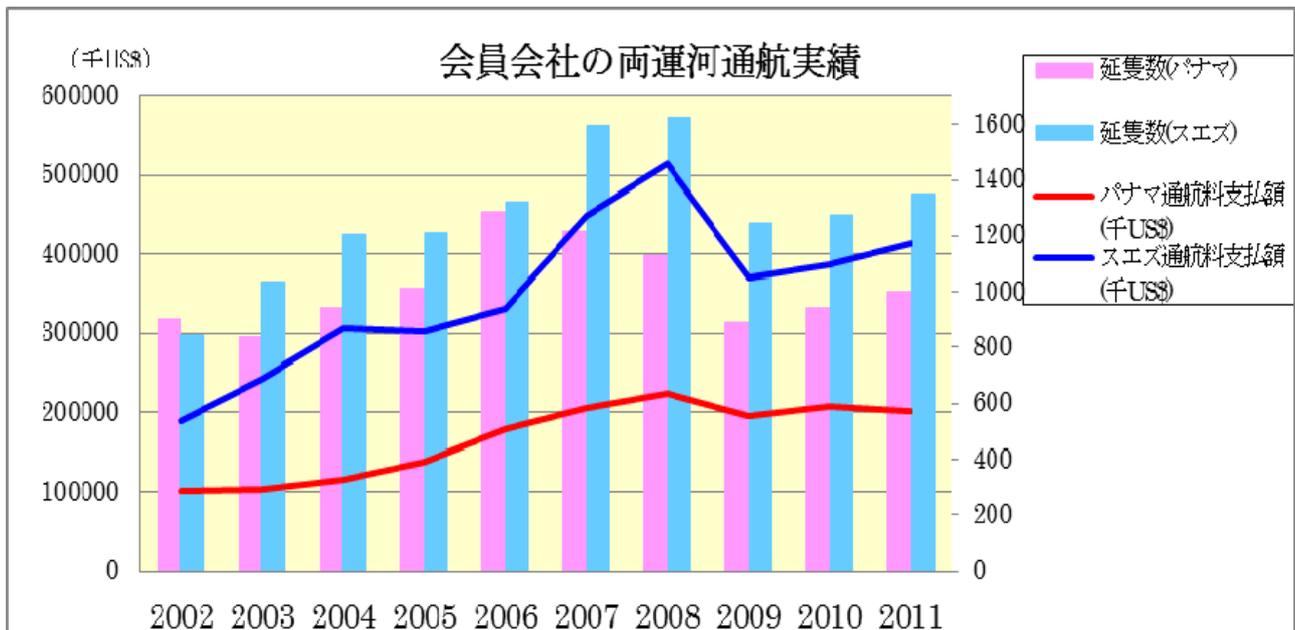


## パナマ・スエズ両運河の利用は増加 - 運河通航船実態調査結果 -

当協会は、毎年会員各社の運航船舶（外国用船を含む）について、パナマ・スエズ両運河に係る通航実態・通航料支払実績の調査を実施しており、今般その結果がまとまった。

調査対象期間は、パナマ運河については2011年4月1日より2012年3月31日、スエズ運河については2011年1月1日より同年12月31日までとした(統計の連続性上)。

なお、運河トン数や通航料については用船契約によって用船者等が支払う場合があるため、実績が不明のものがあつた。このため、表中の実績は、調査回答船社が確認できる範囲で集計したものである。



\*\*\*\*\*

### <パナマ運河>

#### a. 通航実績

パナマ運河の利用状況は、**通航船社数**が前年度比較で2社減の15社であったものの、利用隻数(延べ)は6.7%増加(2011年:1003隻/2010年:940隻)した。**G/Tベース**では5.1%増加(2011年42,317千G/T /2010年:40,263千G/T)し、**D/Wベース**では11.4%の増加(2011年:41,056千D/W /2010年:36,866千D/W)であった。

## b. 通航料支払実績(確認分)

コンテナ船以外の料率の基本となる**通航船舶トン数**(PC/UMS : Panama Canal/ Universal Measurement System※1) ベースでは 26,570 千トンとなり、コンテナ船のベースとなる**TEU**は 921 千 TEU となった。この結果、全体の**通航料**では 202,102 千米ドル(2010 年 : 207,716 千米ドル、**概算値含む**)となった。

### a. パナマ運河通航実績推移

年度	社数	延隻数	延千G/T	延千D/W
2002	16	904	34,191	27,285
2003	14	835	32,525	27,883
2004	13	941	38,710	31,875
2005	17	1,011	42,158	35,998
2006	18	1,284	55,484	42,608
2007	18	1,216	52,405	43,064
2008	19	1,129	48,952	45,087
2009	17	887	40,632	38,385
2010	17	940	40,263	36,866
2011	15	1,003	42,317	41,056

### b. パナマ運河通航料支払実績(確認分)推移

年度	延隻数	延千 PC/UMS	延千 TEU	通航料	
				千 USドル	億円(参考)
2002	904	35,680	-	100,293	122
2003	835	30,810	-	102,157	122
2004	941	39,908	-	115,424	124
2005	1,011	40,083	-	136,981	155
2006	1,284	51,111	-	178,590	209
2007	1,211	34,692	1,127	204,925	227
2008	1,100	28,442	1,123	224,246	225
2009	887	29,234	1,170	195,781	181
2010	940	27,154	1,019	207,716	177
2011	878	26,570	921	202,102	160

注 1) 2011 年の通航料の円換算率は、2011 年 4 月～2012 年 3 月の平均レート(銀行間直物相場)1ドル=78.99 円を採った。

注 2) 2005 年 5 月より、コンテナ船に対する通航料は、TEU 当たりの料金とする課徴方式に変更となったため、2007 年度調査から延 PC/UMS にはコンテナ船の分を含まないこととした。

注 3) 通航料については概算値含む。不明運河トンについては 0 としてカウントし、延隻数・通航料も除外。

### c. 船種別内訳 (2011. 4. 1～2012. 3. 31)

船種別で見ると、延隻数では、自動車専用船が 347 隻→339 隻、コンテナ船が 212 隻→196 隻とともに微減、PC/UMS ベースでも それぞれ 18,942 千トン→18,427 千トン、1,019 千 TEU→921 千 TEU と減少した。しかしながら、通航料は自動車専用船が 0.5%の微増(2011 年：85,760 千ドル/2010 年：85,321 千ドル)、コンテナ船も 0.4%の微増(2011 年：83,609 千ドル/2010 年：83,247 千ドル)となるなど、一部船種では隻数微減ながら通航料は 2011 年 1 月の値上げにより微増となった。

#### c-1. 船種別通航実績内訳

船種	社数	延隻数	延千G/T	延千D/W
タンカー	5	52	1,127	1,835
バルクキャリア	10	410	11,790	20,475
自動車専用船	4	339	18,656	6,092
コンテナ船	2	196	10,607	12,511
在来定期船	1	5	87	135
その他船舶	1	1	50	8
合計	15	1,003	42,317	41,056

注) 社数合計の 15 は、調査期間中にパナマ運河を通航した会員船社数であり、船種別の社数の合計とは一致しない。

#### c-2. 船種別通航料支払実績 (確認分) 内訳

(通航料=千 USドル)

船種	延隻数	延千 PC/UMS	延千 TEU	通航料
タンカー	52	942	-	4,480
バルクキャリア	285	7,087	-	27,672
自動車専用船	339	18,427	-	85,760
コンテナ船	196	-	921	83,609
在来定期船	5	73	-	365
その他船舶	1	41	-	216
合計	878	26,570	921	202,102

注) 通航料については概算値含む。不明運河トンについては 0 としてカウントし、延隻数・通航料も除外。

なおパナマ運河全体では、同運河庁発表の 2011 年度実績によると隻数・PC/UMS とともに前年度比 3.2% 増、7.1% 増となっており、主にアジア向けドライバルク船やコンテナ船などによってパナマ純トン数 (PC/UMS) が過去最高を記録するなど、活況を呈したことが伺われる。

## <スエズ運河>

### d. 通航実績

スエズ運河の利用状況は、通航船社数が前年度比較で 2 社減の 9 社であったものの、利用隻数(延べ)は 6.1% 増加 (2011 年：1,349 隻/2010 年：1,272 隻)、G/T ベースでは 14.7% 増加 (2011 年：87,782 千 G/T /2010 年：76,517 千 G/T)、D/W ベースでは 20.6% の増加 (2011 年：73,878 千 D/W /2010 年：61,239 千 D/W) となった。

### e. 通航料支払実績(確認分)

料率の基本となるスエズ運河トン数(SCNT : SUEZ Canal Net Tonnage※2) ベースでは、66,206 千トンとなり、この結果、全体の通航料は 414,365 千米ドル(2010 年 : 386,848 千米ドル) となった。

### d.スエズ運河通航実績推移

年度	社数	延隻数	延千G/T	延千D/W
2002	11	842	43,126	38,010
2003	13	1,034	51,053	48,155
2004	13	1,203	61,481	55,102
2005	14	1,209	61,014	56,543
2006	16	1,322	61,426	52,359
2007	21	1,595	85,595	77,905
2008	22	1,626	91,830	81,048
2009	13	1,248	74,905	64,440
2010	11	1,272	76,517	61,239
2011	9	1,349	87,782	73,878

### e.スエズ運河通航料支払実績(確認分)推移

年度	延隻数	延千 SCNT	通航料	
			千 USドル	億円(参考)
2002	842	42,898	189,060	237
2003	1,034	52,018	243,051	282
2004	1,203	60,543	307,470	333
2005	1,209	58,233	303,102	334
2006	1,322	57,929	330,653	385
2007	1,574	81,839	449,637	530
2008	1,620	90,906	514,002	532
2009	1,149	61,552	370,759	342
2010	1,174	64,831	386,848	338
2011	1,199	66,206	414,365	330

注 1)2011 年の通航料の円換算率は、2011 年 1 月～12 月の平均レート(銀行間直物相場)1ドル=79.62 円を採った。

注 2)通航料不明分については 0 としてカウントし、延隻数・運河トンも除外。

### f. 船種別内訳 (2011. 1. 1～2011. 12. 31)

船種別でみると、延隻数では、コンテナ船が 528 隻→590 隻と増加した一方、自動車専用船は 376 隻→357 隻と減少した。SCNT ベースでは、それぞれ 39,422 千トン→41,825 千トン、20,800 千トン→20,136 千トンとなった。その結果、通航料もコンテナ船が 13.9%の増加(2011 年 263,255 千米ドル/2010 年 : 231,122 千米ドル)、自動車専用船が 3.4%減(2011 年 : 115,498 千米ドル/2010 年 : 119,519 千米ドル)となった。

### f-1.船種別通航実績内訳

船 種	社 数	延隻数	延千G/T	延千D/W
タンカー	7	291	8,356	10,904
バルクキャリア	2	3	210	416
自動車専用船	4	357	20,019	6,662
コンテナ船	3	590	46,809	46,281
在来定期船	0	0	0	0
その他船舶	1	108	12,208	9,615
合 計	9	1,349	87,782	73,878

注)社数合計の9は、調査期間中にスエズ運河を通航した会員船社数の合計であり、船種別の社数の合計とは一致しない。

### f-2.船種別通航料支払実績(確認分)内訳

(通航料=千 USドル)

船 種	延隻数	延千 SCNT	通航料
タンカー	249	4,046	34,841
バルクキャリア	3	199	771
自動車専用船	357	20,136	115,498
コンテナ船	590	41,825	263,255
在来定期船	0	0	0
その他船舶	0	0	0
合 計	1,199	66,206	414,365

注)通航料不明分については0としてカウントし、延隻数・運河トンも除外。

なおスエズ運河全体では、同運河庁発表の2011年度実績によると隻数は微減なるも(前年度比1.1%減)、LNG船の通航増加(前年比33.8%増)等でスエズ運河トンが前年度比9.7%増となるなど、好調だったことが伺われる。

※1 PC/UMS(The Panama Canal/Universal Measurement System):

パナマ運河庁が採用している船舶容積の測定方法。

※2 SCNT(SUEZ Canal Net Tonnage):

純トン数規則をもとに、スエズ運河当局独自の控除基準を加えて算出する。二重底船の船底にバンカー油を積載した場合その部分の控除を認めない等、パナマ運河や各国の規則とも異なる独特のもの。

以上